

2013 年 6 月のインドの大雨について

インドでは、広い範囲で多雨となっている。特に、6月中旬に北西部のウッタラカンド州周辺で大雨となり、大きな被害が発生している。

1. 天候の経過と被害状況

6月16日にインド全域が雨季に入った（インド気象局）。インド北西部の雨季入りは記録的に早く、平年より約1か月早かった。

6月のインドの降水量（25日現在）は広い範囲で平年より多くなっている（図1）。特に平年と比べて降水量が多かったインド北西部のデラドゥーン（ウッタラカンド州）では、6月10日頃から雨が降り始め、6月10日～17日の8日間降水量が640mm以上となった（インド気象局によるデラドゥーンの6月の平年値（1901～2000年の平均）201.8mmの約3倍）（図2）。

この大雨により、6月24日までに、ウッタラカンド州で9万人以上が避難し、洪水等により560人が死亡した。また、インド全体で658人の死亡が確認された（インド政府）。

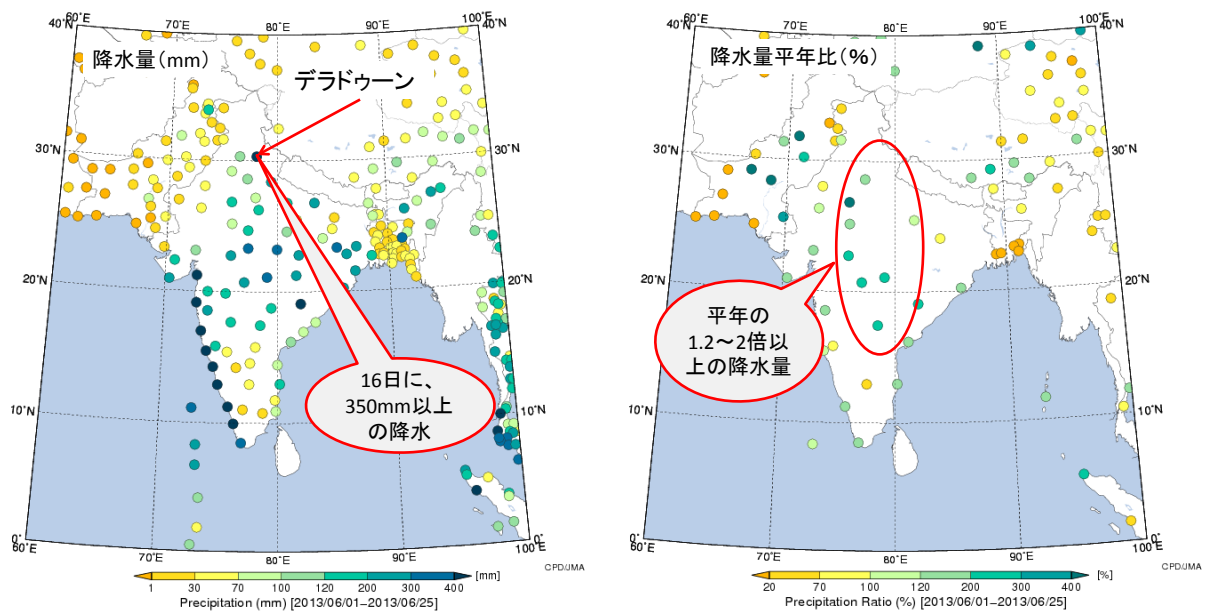


図1 インドの降水量及び降水量平年比

左図は、6月1日～25日のインドにおける降水量 (mm)、右図は降水量平年比 (%) を示す。各国からの通報に基づき、気象庁で作成。

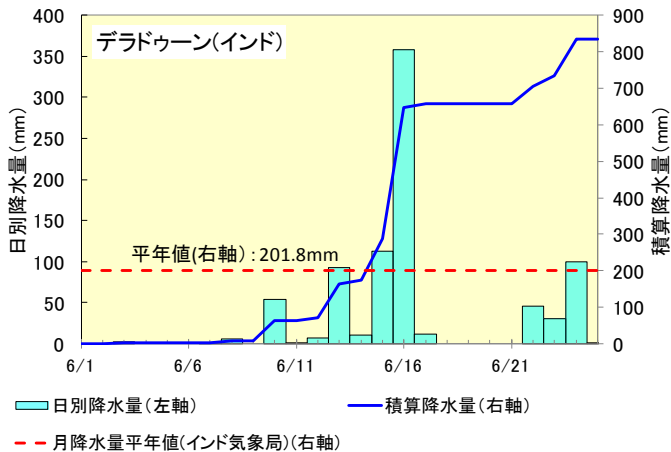


図2 デラドゥーンの日別降水量及び積算降水量の推移

棒グラフが日別降水量 (mm、左軸)、青実線が積算降水量の実況 (mm、右軸)、赤点線がインド気象局による6月の月降水量平年値 (mm、平年値期間：1901～2000年、右軸)。

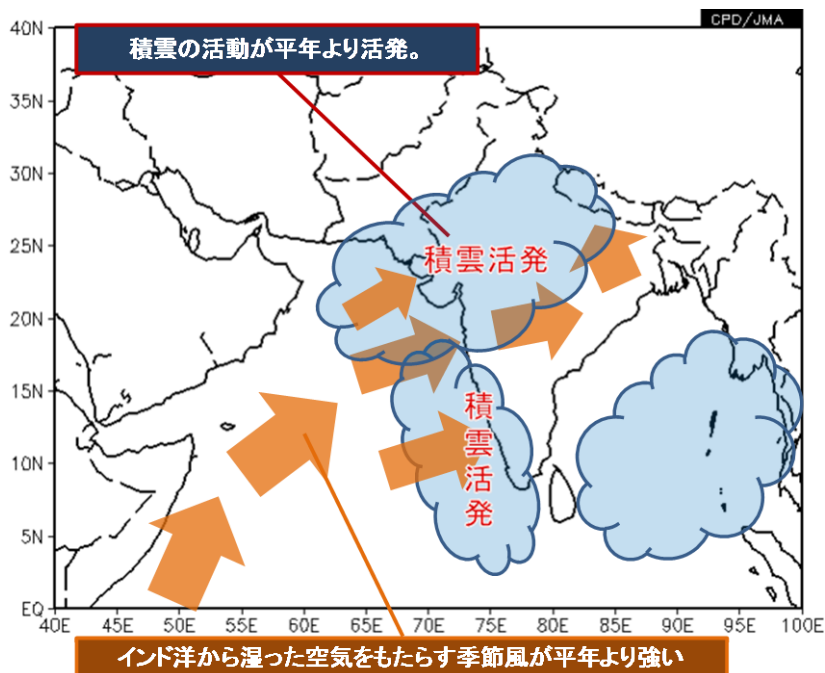


図3 インド付近の大気の流れの特徴 (6月1日～24日平均)

2. 大気の流れの特徴 (図3)

インド洋からインドに湿った空気をもたらす下層の南西風(季節風)が平年より強かった。インド西岸やインド北部では積雲対流活動が平年より活発で、大雨となった。

3. 今後の見通し

インド気象局の予報によると、今後7月2日にかけてはインド北部や西岸の広い範囲で雨となる見込み。

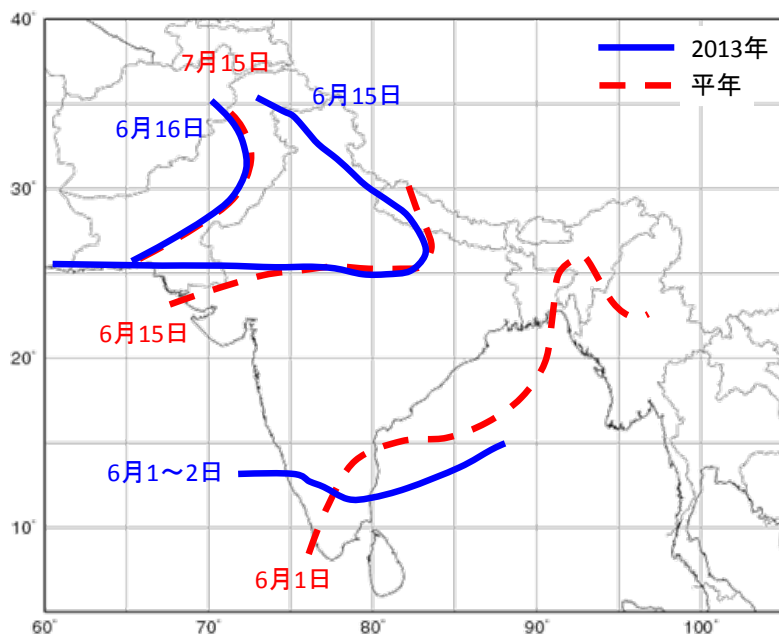
※気象庁ホームページ「世界の異常気象」

(http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/extreme_world/index.html)

において、最近の世界の異常気象や気象災害の状況を週、月、季節別にまとめていますので、あわせてご利用ください。

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 異常気象情報センター
03-3212-8341 内線 3158]

【参考資料】



参考図 インドの雨季入りの状況

インド気象局による今年（2013年）及び平年の雨季入りの状況図をもとに、気象庁で作成した。赤い点線が平年の位置、青の実線が今年の実況を示す。インドでは、通常、6月1日頃に南東部から雨季に入り、インド全体が雨季に入るのは7月15日頃である。今年は、平年より約1か月早い、6月16日にインド全体が雨季に入った。